

Title	ガラスのスリッパ：絵と書承
Sub Title	Tradition écrite et illustration : autour des pantoufles de verre
Author	片木, 智年(Katagi, Tomotoshi)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	2025
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.129, (2025. 12) ,p.174 (29)- 180 (23)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	2024年度藝文学会シンポジウム「文学と絵」 開催日：2024年12月13日 対面 (慶應義塾大学三田キャンパス北館ホール) 開催
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-01290001-0174

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ガラスのスリッパ

— 絵と書承

片木 智年

仏文の片木と申します。絵の問題とか挿絵の問題とか、専門でもなんでもなくてド素人なんですけれども、テキストと絵あるいは挿絵との関係で気になることがないわけでもないの、今日はちょっと与太話のようなものなのですが、おそらく世界で一番有名であろうフランス文学作品について語ろうと思います。

世界で一番有名なフランス文学っていったらなんだろう、と言ったら、ビクトル・ユゴーか、マルセル・ブルーストか、いろんな名前や作品が出てくると思いますが、多分老若男女という意味で一番有名なのは『シンデレラ』だと思います。で、二番目に有名なものは『赤ずきんちゃん』。三番目は多分『眠れる森の美女』だと思います。というので、上位3つくらいのうちの2つは、ディズニーの影響が大きいですね、おそらく。ただ、ご存知のように、『赤ずきんちゃん』も『眠れる森の美女』も『シンデレラ』も、もとは全部フランス文学でありまして、いちばん有名なテキストは17世紀の終わりくらいに、シャルル・ペローという人が書いた本の中、—「昔話集」というタイトルなんですけれども、それが日本では『ペロー童話集』といったようにいろいろ訳されていますが—その中に入っていたお話です。それでなんで一番最初に『シンデレラ』の話なのかと言うと、ヒロインの残していく靴について、「文学と絵」の観点から話せるかなと思ったからです。

『シンデレラ』のさっきのシャルル・ペローの版は17世紀の終わりと言いましたけれども、今お見せしているのは初版のデッサンを引き継いだ18世紀の版で、靴を拾い上げているところです。

この靴が何に見えるかという話なんです、これ別にフランスとかイギリス関



[1742, *Histoires ou contes du temps passé*, Source gallica.bnf.fr / BnF, <https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k8402388?rk=21459;2#> 2025/11/13 確認]

係の人は全然驚かないと思いますが、フランス語では「パントゥフル」といって、かかとの覆いのない部屋履き。英語では18世紀の初訳からスリッパです [Robert Samber, 1729]。シンデレラが落としていくのはスリッパで定番なんです。それから、イギリスでは一僕ちょっと自信なかったんですけども一検索してみるとやっぱり「グラススリッパ」と圧倒的に出てきて、ディズニーもガラススリッパというのを踏襲しています。これが日本だとなんとなく「ガラスの靴」というのしか聞いたことがないんですよ。ディズニーランドで売っているのも「ガラスの靴」なのかどうかかわからないんですけども、ウォルト・ディズニー・プロダクション自体はアニメでもちゃんと

スリッパと言っていますから。日本でこうなった事情はわからないんですけどもね。歌詞に出てきたり、それから絵本やアニメに出てきたり、日本では全部ガラスの靴、あるいはハイヒールという印象ですね。それから僕ちょっと翻訳も調べてみたんですが、慶應の図書館に入っているいわゆる「ペロー童話集」、たくさん種類があるんですよ。戦後の6種類を見てみましたが、靴という表記が4つで上靴が2つだったんです。上靴が2つだったということは、やっぱり原文のことを意識したんだと思います。部屋の中で履くということは意識したと思うので。でもなんとなくやっぱり、踊りに行くのにスリッパはないんじゃないか、というので、そのあたりで世間常識と、それから明示的に書かれている原典のテキ

ストの間で葛藤が起こったんじゃないか、と。くわえて今までの挿絵であるとか絵本であるとか—そういったものが夥しく出ていますので—その絵との間の葛藤もあったのではないかと、とも考えるわけです。

というのが、今日の話の問題提起なんですけれども、…「glass slippers video」でネット検索すると案の定こういうものがでてくるんですね…（イメージの世界ではスリッパは駆逐されている）。実はすでにディズニーのオリジナルアニメ（1950, Disney Production）の段階で、明らかにアニメの中に描かれているのはガラスのパンプス、しかもヒールの高いものです。にもかかわらず、音声では堂々とグラススリッパ（glass slippers）って言ってて、シンデレラはグラススリッパをもらったと言ってもものすごく喜んでいるんですよ。で、そのシーンがフランス語や日本語のディズニー版でどうなっているかを調べてみました。ディズニープラスという動画サービスがあって、その動画サービスから引いてみましたが、フランス語でも「パントウフル・ド・ヴェール」と言っていますね。「見てよ、ガラスのスリッパ」と言って。日本語だけが「それに、ガラスの靴よ」と言って靴になっている。これを考えまして、さっき言ったように、「靴」になっているのは、世間常識との葛藤と、それからもしかするとそれまでの挿絵とか絵本の伝統との葛藤があったんじゃないか、と。それで調べてみました。日本では明治期にペローもグリムも随分訳されて、研究もされているというのを耳にかじっていましたので。その研究というのを探してみました。そうしたら、単にめっぼう検索しただけですが、真っ先に出てきたのが2023年と新しくて、おまけに明治期を中心にした灰かぶり、シンデレラの受容、というそのものズバリのタイトルの論文。〔野口芳子“日本における「シンデレラ」（灰かぶり）の受容—明治期を中心に”『京都府立大学学術報告（人文）』第75号（2023年12月）〕、なんと便利なことに、ペロー版・グリム版の基になった英語の版などを示しながら、こういう表をだしてくれてます（pp.179-180）。この表の中で、絹の靴とか金銀の靴とか、こういうのはすべてグリム系です。ペロー系のものはガラスになってますよね。これ、なんて読むか僕わからないんですけど、何か走るための靴ってガラスのランニングシューズですかね〔玻璃（ガラス）の走靴〕、違いますかね。それから「玻璃の上靴」に「ガラスのスリッパ」とルビをふっただけのものもあります〔玻璃（ガラス）の上履（スリッパ）〕。「硝子（ビードロ）の踊り靴」といってビードロを使ったもの。こちらは「踊り靴」というので、舞踏会との

葛藤を解決したということになるんですね。それから「玻璃の上靴」。日本の最近の翻訳でも上靴というのがあったという話をしました。他にも「硝子の靴」、「硝子の上靴」。そしてリスト上最後で、ただの「上靴」としているのは絵本ですね。しかも子供用だそうで、僕すごくこれに興味を持って出てこないかなと思って国立国会図書館なんかのを探しましたが、その号は見つかりませんでした。それからこれ、これ有名ですよ。坪内逍遙の翻訳が『おしん物語』って。これもしかしてシンデレラだからお「しん」なんですか。そうじゃないと思いたいです。

それからこちら『燠娘（西洋仙郷奇譚）（1896）』は国立国会図書館でデジタル化されてたので、それをお見せするとこれです。この西洋奇譚集みたいなものに入っていて、色々な話が出てきますが、さっきからところどころ挿絵が入っていますよね。怖いものもでてきます。だいたい和風に変えられているのですが、この中にシンデレラがありまして、（ちなみにこちらは睡眠の「睡」に「美人」って書いていますね、これどうやら眠れる森の美女みたいです。睡美人。）シンデレラは「燠娘（ふすぼり）」ってなってます。「ふすぼる（燠る）」というのは、日本語の辞書（広辞苑・第4版）を見ると、「(1) よく燃えないで煙が立つ。くすぶる。(…)(3) すすけ黒ずむ」という意味らしいんです。これがフランス語では「灰だらけの小娘、灰っ娘」サンドリヨンで、英語ではどっちかというトスすだらけ(cinder)の小娘、シンデレラです。英語から訳したでしょうから、岩波のグリム版を始めとした「灰かぶり」系の訳語よりは、こっちのほう、燠娘のほうがイメージとしては妥当なわけです。

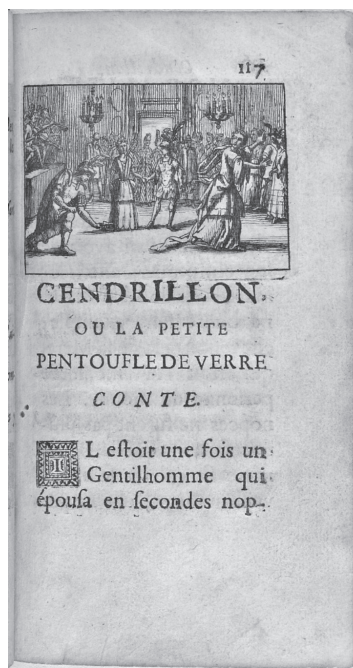
で、ここ、なんて書いているかというと、「世にも美しきガラスのスリッパ」と書いていますよね。ここのど真ん中のところ。で、これ（硝子のスリッパとは程遠い挿絵）なんですけど、これはなんなんでしょう…。ちょっとよくわからないんですけど、きっとこれ、下足じゃなくて家の中で履く足袋の一種なんじゃないか、ということはわかるわけです。もう実は明治期でガラスのスリッパというテキストとイメージの間の乖離というのはあったわけなんですよ。なんでこんなことになったのかということが、次なんです、原典に戻ります。

これがペローの原書、大本の大本です。

「過ぎし日の物語もしくは小話（フランス語）」と本のタイトルに書いてありますので、昔話集というわけです。この章は「サンドリヨンもしくは小さなガラ

スのスリッパ」(注：pentoufle は pantoufle)。挿絵がついてますが、さっきの絵と構図が似ていますよね。構図が似ているのは、18世紀までの挿絵は殆どパクリみたいなもので、少なくとも絵に関しては同じような構図が使われまくっています。で、これを見たらやっぱりどう見てもスリッパを拾い上げているわけですよ。もうちょっと大きいのがあります。これだともうちょっとよく見えますよね。これは、だいたい絵が下手に見えますけど。この本には一作につきひとつくらいしか作品に絵がついていないのですが、18世紀の1742年に出了たものを見ると、サンドリヨンのデッサン、二つに増えているんですよ。これですよ、最初に見ていた。拾い上げている絵はどう見てもスリッパなんです、タイトルの前、48ページに置かれた挿絵、ここの靴を落とした所では、どうもヒールがあるみたいです。

どう思います？ これ。どうやら、さっき言った葛藤のせいかわからないですけども、本来のガラスのスリッパに二枚挿絵を入れることで、一枚は初版からの伝説をそのまま踏襲して、もう一枚



[<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k10545223/f135.item> Source gallica.bnf.fr / BnF, 2025/10/27 確認]



[1742, *Histoires ou contes du temps passé*, Source gallica.bnf.fr / BnF, <https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/bpt6k8402388?rk=21459;2#> 2025/11/13 確認]



[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:%C3%89pinal_-_Cendrillon_11.jpg#file]

こちらは wikisource の public domain のファイル。

2025/10/27 確認 .19 世紀とのクレジットだが 1840 年代から同じ物がある]

は革新が入っちゃったわけです。ガラスのパンプス、ハイヒールですよ。そこから次に、1777 年の版。

ここでも靴を落としたところは、1742 年と同じ挿絵が使い回されていて、1777 年の段階でもうテキストとイメージの間の乖離というのが決定的になっちゃったと。

それから、19 世紀前半、こっちになってくるとカラーだし、絵がだいぶマシになってくる。

19 世紀のフランスでは、こういう民衆用の小型絵本というかなんとか、ちょっとした漫画のようなものがすごく流行って、行商人が田舎を回って子供のた

めに売ったりしていたらしいです。で、それがエピナルというところで作られたことが多いので、「エピナルのイメージ」といいますが、今落としていく靴、パンプスで（添えられたテキストは相変わらずパントフですが…）、もう一つ革新が入りました。リボンが付いていますよね。ディズニーもガラスの靴にリボンがついているんですよ。それからもう一つ、エピナルのイメージが最初かどうかは、僕、専門家でもなんでもないので確信できませんが、階段で落としていくという状況がつけ加わりました。それからペローのテキストですが、ガラスの靴を落としていくときに使う動詞とかで判断すると、わざと落としていったかなと思わせぶりな言い方をしているんですが、ここでは、階段で落とすことによって、振り返って取りに行こうか躊躇することによって、彼女がガラスの

靴を落としていくのはわざとじゃない、事故だという解釈上の断定が付け加わったと思います。というわけで、そろそろ時間なんで、まだいくつか話せそうと思ったことはあったのですが、無理やりまとめますと、こういう各伝統のなかでガラスの靴＝スリッパという言語レベルの紋切り型はしつこく残ったのですが、それでもイメージの方は独立し発展していきます。最後におそらく決定的であったのは、1950年のディズニーのイメージでしょう。ガラスの靴を巡る書承の伝統にくわえて、リボンやガラスのバンプス、階段で落としていくとか、そしてそれはわざとじゃないとか、そういうエピナルのイメージが持ち込んだ新たな伝統を（言葉のレベル＝音声・字幕とイメージのレベルで）ディズニー版は取り込みながら、多分決定的なものにしたのではと思います。その影響で、僕が慶應で調べた（全て50年代以降の）6つの翻訳は、ガラスのスリッパと書くのにためらいがあったんじゃないか。そしてガラスの靴というのはアレゴリーで、なおかつあれは呪物であると思うので、そのへんの解釈も絵の解釈に関わってくると思います。そんなことについてはまた別の所で書いたりしているので、興味のある方はよろしくお願いします。ということで終わりです。